

【4】 Q&A ステロイド外用薬について

アトピー性皮膚炎は、寛解と増悪を繰り返し、痒みのある皮疹を主病変とする疾患です。現時点においてアトピー性皮膚炎の炎症を十分に鎮静し、その有効性と安全性が科学的に立証されている薬剤として、ステロイド外用薬があります。

ステロイド外用薬の効果と局所性の副作用の発現率は一般的には比例するため、必要以上に強いステロイド外用薬を選択することなく、「個々の皮疹の重症度」に見合ったランクの薬剤を適切に選択することが重要です(表1)。

表1. 皮疹の重症度とステロイド外用薬の選択

| | 皮疹の重症度 | 外用薬の選択 |
|-----|---|--|
| 重症 | 高度の腫脹/浮腫/浸潤ないし苔癬化を伴う紅斑、丘疹の多発、高度の鱗屑、痂皮の付着、小水疱、びらん、多数の掻破痕、痒疹結節などを主体とする。 | 必要かつ十分な効果を有するvery strongないしstrongクラスのステロイド外用薬を第一選択とする。痒疹結節でvery strongクラスでも十分な効果が得られない場合は、その部位に限定してstrongestクラスを選択して使用することもある。 |
| 中等症 | 中等度までの紅斑、鱗屑、少数の丘疹、掻破痕などを主体とする。 | strongないしmediumクラスのステロイド外用薬を第一選択とする。 |
| 軽症 | 乾燥および軽度の紅斑、鱗屑などを主体とする。 | mediumクラス以下のステロイド外用薬を第一選択とする。 |
| 軽微 | 炎症症状に乏しく乾燥症状を主体とする。 | ステロイドを含まない外用薬を選択する。 |

乳幼児、小児には、原則として、皮疹の重症度が重症あるいは中等症では、表1に示したランクよりも1ランク低いステロイド外用薬を使用します。ただし、効果が得られない場合は十分な管理下で高いランクのステロイド外用薬を使用します。また、顔面には高い薬剤吸収率を考慮して、原則としてmediumクラス以下のステロイド外用薬を使用します。

ステロイド外用薬の使用回数は、急性増悪の場合には1日2回(朝、夕：入浴後)を原則とします。ただし、ステロイド外用薬のランクを下げる、あるいはステロイドを含まない外用薬に切り替える際には、1日1回あるいは隔日投与などの間欠投与を行いながら、再燃のないことを確認する必要があります。

ステロイド外用薬の外用量は第2指の先端から第1関節部までチューブから押し出した量(約0.5g)が、成人の手掌の2枚分、すなわち成人の体表面積のおよそ2%に対する適量となっています。

Very strongクラスのステロイド外用薬の長期使用試験結果より、皮疹の面積にも左右されますが、通常の成人患者では十分量である1日5gないし10g程度の初期外用量で開始し、症状に合わせて漸減します。この使用方法であれば、3ヶ月間までの使用では一過性で可逆性の副腎機能抑制あるものの、不可逆性の全身的副作用は生じないと考えられます。乳幼児、小児においてはその体重にもとづき、成人での使用量から換算した量を初期外用量の目安とします。

表2に当院採用のステロイド外用薬のランクについてまとめたので参考にしてください。

表 2. ステロイド外用薬のランク

| 薬効 | 一般名 | 製品名 |
|-----------------|------------------------|--|
| A (strongest) | クロバタゾールプロピオン酸エステル | デルモベート軟膏、デルモベートスカルプローション |
| | ジフロラゾン酢酸エステル | ダイアコート軟膏、ジフラークリーム |
| B (very strong) | ジフルコルトロン吉草酸エステル | ネリゾナユニバーサルクリーム |
| | フルオシノニド | トプシムクリーム、トプシムローション |
| | 酪酸プロピオン酸ヒドロコルチゾン | パンドルローション |
| | ジフルプレドナード | マイザー軟膏 |
| | ベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステル | アンテベート軟膏、アンテベートローション |
| | アムシノニド | ビスダーム軟膏 |
| C (strong) | ベタメタゾン吉草酸エステル | リンデロンV軟膏、リンデロンVクリーム リンデロンVローション、リンデロンVG軟膏 |
| | フルオシノロンアセトニド | フルコート軟膏 |
| | デキサメタゾンプロピオン酸エステル | メサデルムクリーム、メサデルムローション |
| D (medium) | クロバタゾン酪酸エステル | キンダベート軟膏 |
| | ヒドロコルチゾン酪酸エステル | ロコイド軟膏、ロコイドクリーム |

(参考)

- ・アトピー性皮膚炎に対するステロイド外用薬の使い方(監修：古江増隆)
- ・アトピー性皮膚炎診療ガイドライン